

令和二年度 上田市立神科小学校  
卒業証書授与式 式 辞

先ほどは、上田市教育委員会の告示をいただき、ただ今は、卒業生一人一人に卒業証書を授与することができました。

あらためて、卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。

コロナ禍の中、一時は感染警戒レベルも4に上昇し、最悪の事態も頭をよぎりましたが、こうして卒業式を迎えることができました。

ただし、昨年度に引き続き、感染予防の観点

から、ご来賓と在校生の参列は控えさせていた  
だいています。その分も含め、ここにいる私た  
ちで、精一杯の祝福の気持ちを込めて、卒業生  
の門出を祝いたいと思います。

さて、話を昨年二月中旬に戻します。児童会  
選挙を終えたばかりの新役員が、来年度の児童  
会テーマを考えてくれました。

それは、「わくわくドキドキ、明日も来たくな  
る神科小学校くあいさつと清掃」でした。

やる気や希望に期待を高めた矢先に、新型コ  
ロナ感染拡大防止のための突然の休校が始ま  
り、しかも新年度を迎えた三日後から更に、約  
二ヶ月に及ぶ再休校となってしまいました。

…

この休校中、皆さんに代わって四人の担任が  
作ったテーマの掲示（体育館にもありました）

「わくわくドキドキ、明日も来たくなる神科小学校：」この文字を見るたびに、子どもたちの声のしない学校の寂しさと、自宅で我慢を続ける皆さんの辛さ、悲しさ、悔しさを考えざるを得ませんでした。

そんな苦しさが明けた六月以降、感染予防に細心の注意を払いつつ、我が神科小学校では、皆さんをリーダーとし、知恵と工夫を凝らし、一つ一つできることを企画し実行してきました。

語り出せばキリがないので、皆さんには申し訳ありませんが、項目だけにします。

花とつるのセンターライン、全校を交えた交流や清掃活動、マユちゃんから学んだ総合的な学習、運動会で見せたフラッグダンス、音楽会においては全学年へ、エールとしてフレンドソ

ングの「今風になって」を歌いました。

そして、一番の思い出となるはずだった修学旅行が中止となってしまいました。その代わりで企画したキッチンカーなどを招いた三日

間のお楽しみランチ、仮装大会・お化け屋敷・花火で沸いたハロウィンフェスティバルの実施、サントミューゼを舞台に総合学習の発表…、コロナ禍とは思えないほど、神科っ子らしいエニークで大胆な企画を次から次へと繰り出しました。

そして今、皆さんの胸には、蚕都として栄えた上田市を象徴する蚕のマユで作った、世界に一つだけのマイコサーージュが輝いています。

既に未来も含めて現在は「予測困難な時代」と、言われています。そのことをコロナ禍により、ありありと実感した一年でした。そんな中、

百三十名が歩んだこの一年を私なりに形容すれば

### 『勇氣と奉仕とサプライズの一年間』

だった…と私は、思っています。

『勇氣』は、新型コロナに負けない強い心。

『奉仕』は、最高学年としての自覚と行動。

そして『サプライズ』は、驚きと感動。

神科小学校を旅立つ皆さんへの「はなむけ」

の言葉として、「感動」(カード)を贈ります。

「感動」…ハッと息を呑むような体験、心の底から驚く、感心する、表しようのない感情で魂が揺さぶられるような体験。

そんな感動体験をいっぱいしてください。

「感動」が、皆さんの心の扉を開いていきます。その心の扉は、多ければ多いほど、皆さんの人生を豊かにしてくれる、私はそう信じてい

ます。

アメリカの音楽や映画などジャンルを超えたアーティスト、ビヨンセを知っていますか？  
(この写真の人です) 私は、こちらマイケル・ジャクソン(写真)の世代です。

保護者の皆様の方が、ビヨンセのことはご存知かもしれませんが。

そのビヨンセが、マイケル・ジャクソンに比べて、こんな言葉を残しているそうです。

『大事なのは、何回呼吸したのか、ではなく、何回息をのむ体験をしたのか』

ビヨンセがここで言っていることは、人生で大切なことは、日々の中でいかに感動を見つけるか：、どう生きるかが大事なんだよ、ということだと、私は思います。

これから皆さんは、いくつ

『ハッと息をのむようなすばらしい瞬間（とき）  
＝感動の場面』と出会うのでしょうか。

出会いは、待つばかりではなく、ぜひ、その  
瞬間（とき）を自分から見つけに行く、そんな  
すばらしい日々を過ごしてください。

皆さんの人生に感動あれ！

令和三年 三月十八日

上田市立神科小学校長 清水 秀昭